

6. 関係機関ヒアリング調査

交通運行事業者や近隣自治体に、現状や問題点、課題の聞き取りを行った。

①路線バス・コミュニティバス運行事業者

a. 小松バス(株)

i 直近のバス事業の現状

- ・バスの乗車率は昨年よりも約 40%落ち込んだが、コミュニティバス受託という、安定した収入がなくなったため、収支の実態としては昨年よりも約 50%の落ち込み
- ・最近では若者の車離れもあり、人材確保が難しい。離職率は落ち着いている。

ii 路線バスの郊外部区間の短縮と都市部の増便について

- ・大杉線の短縮については行いたいと考えている。
- ・尾小屋線の短縮については利用者が増えている感触がある。尾小屋鉱山資料館の館長から、鉱山資料館までの延長の要望があった。
- ・麦口線について、小松市立高校への通学のため、白山市釜清水バス停まで運行する場合は、Uターンのため吉野工芸の里まで延伸が必要である。
- ・都市部の増便については、現状バス車内が密にならないように、通学時間帯に臨時便を運行しているが、これを通年で運行することも考えられる。

iii 新たな取組みに関して

- ・キャッシュレスについては導入コストがかかり過ぎる。また、空港連絡線にて降車後に運賃を決済する場合は、決済漏れが発生するリスクがある。

iv その他

- ・小松駅を超えたルートの運行は、以前栗津温泉から空港までを運行する路線を設けたが、利用者数が伸びず当該路線は廃止された。

b. 日本海観光バス(株)

i 市内循環線『こまち』と木場潟線の現状

- ・7:45 小松駅発のブルーこまちについて、「ショッピングセンター」の到着時刻が 8:03 となっているが、朝は交通量も多く定刻通りに着かないことがあり、学校に遅れてしまう。もう少し早くするよう検討してほしい。
- ・木場潟線の 9 時小松駅発を 1 時間早めれば通学にも利用可能になる。
- ・イオンモール新小松の送迎バスを仮にコミュニティバスとして運行できれば、コミュニティバスの利用者数増加が見込める可能性がある。ただし、送迎バスとして運行する場合、1 時間に最低 1 本は運行が必要。大谷高校の生徒とイオンモールの買い物客の需要を取込むことが、コミュニティバスの利用者数を増やす有力な手段と考えられる。

ii キャンバスの現状

- ・新幹線開業に合わせてキャンバスで ICOCA や Suica が利用できるように設備投資を行う計画がある。
- ・キャンバスは車内で Wi-Fi が利用できる。

iii 新たな取組

- ・バス利用者の年齢層を考えると、費用をかけて Wi-Fi 環境を整備する必要性は小さいとの判断があり、導入を見送った経緯がある。
- ・AI オンデマンドバスについて関心はあるが、採算性を考えると現時点での導入は難しいと思われる。
- ・小松市の観光では、那谷寺から山代温泉、空港からであれば安宅関方面に行くことが多い。

iv 小松市への要望

- ・小松市内を運行するコミュニティバスにおいて、同一路線内における運賃を統一してもらいたい。

②近隣自治体の交通サービスの利用状況

a. 加賀市

i 乗り合いタクシーについて

- ・乗り合いタクシーの財政負担は年間 4,000 万円、予約システムのランニングコストは年間 500 万円がかかる。運賃収入は年間 500 万円程度。
- ・高齢者等予約・配車アプリを導入しているが、現状では 99%が電話予約。
- ・路線バスである加賀温泉バスが 5 路線運行しているが、路線バスの方が基本的に運賃は安いいため、路線バスを利用できる人は路線バスを利用する。
- ・乗り合いタクシーは日常使い、タクシーは観光客や夜遅くまでお酒を飲んだ人、或いは予約なしにすぐに利用したい人が利用するものになっている。

ii キャンバスについて

○コミュニティバスとしての運行

- ・キャンバスは観光周遊バスとしての利用がメイン。ただし朝夕にコミュニティバスとして運行している路線もある。

iii MaaS の取り組み

- ・新幹線開業までに現状の公共交通を MaaS で便利にしたい。アプリを導入すると利用者のデータを取得できるので、そのデータを用いて都市を最適化したいと考えている。
- ・乗り合いタクシーのシステムは現状予約のみであり、決済は行えない。
- ・地元の商店を巻き込んだサービスについては、店側の協力が得られれば、可能である。

b. 能美市

i. のみバス

- ・4月の路線改編後、連携ルート、循環線共に利用者数は昨年より減少。

ii. JAIST バス

- ・JAIST バスは能美市民であれば無料で利用可能。利用できる JAIST バスは鶴来駅・JAIST 間の便のみで、小松行きの便は利用できない。
- ・利用希望者は能美市に申請し利用者証を発行してもらう。利用者証の有効期間は1年で、毎年4月1日に更新が必要。毎年約150人が更新。

iii. 路線バス

- ・明峰高校、大谷高校に通学する能美市在住の生徒に対して1月から2月の間、バス運賃の2分の1、最大2万円を補助している。補助金は能美市から高校に該当する生徒分を支払い、高校から生徒に渡すという流れになっている。ただし通学する生徒自体が少なく、この通学バスの補助を継続するか、要検討である。
- ・能美市から小松商業高校等への通学の利便性向上のため、運行経路の見直しを検討してもらいたい。現状、能美市・小松市間を運行する路線バスは全て小松駅が終点であり、小松駅での乗り換えが発生する点が不便である。

C. 白山市

i. 地域公共交通網形成計画

- ・JR 北陸本線加賀笠間駅と松任駅間に新駅設置の位置づけを行った。
- ・加賀笠間駅、美川駅、小舞子駅は路線バスの乗入れはないが、その代替手段としてめぐーの乗入れを行っている。

ii. めぐー

- ・尾口ルートや上野・阿手ルートでは、電話予約によるデマンド方式を一部導入しており、利用前日の午後5時までに予約が必要。
- ・運行の予約は尾口、鳥越のサービスセンター職員が行い、予約状況が市のホームページに現れ、それを見て事業者が運行を判断する。
- ・めぐーでは利用者の半数以上が75歳以上の高齢者であるため、キャッシュレスの導入は考えていない。

iii. 小松市の運行に関連して

- ・麦口線の白山市への乗入れを継続してもらいたい。別宮バス停は白山市の路線バスと接続していない。麦口線を釜清水バス停まで延伸して、白山市の路線バスと接続できるようにしたい。

iv. その他

- ・白山市の公共交通の運行委託費としては、めぐーの運行経費1.1億円とあわせて、年間約2億円弱を計上している。